

## 令和５年度第２回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

開催日時	令和５年７月２７日（木） 午後２時００分～午後３時３０分		
会議場所	阪南市役所別棟２階第３会議室		
出席者	会 長	森本 典子	（阪南市みんなの図書館を考える会）
	副 会 長	鈴木 恒一	（生涯学習部学校教育課）
	委 員	後藤田 郁子	（市民公募）
	委 員	東堂 美幸	（子どもＮＰＯはらっぱ）
	委 員	置田 萌香	（阪南市社会福祉協議会）
	委 員	井上 和代	（阪南市子ども文庫連絡会）
	委 員	有田 佳乃巳	（下荘小学校）
	委 員	宮元 早苗	（はあとり幼稚園）
	委 員	中川 智子	（子育て総合支援センター）
	委 員	立石 和	（こども未来部こども政策課）
	委 員	川浪 彩奈	（健康福祉部健康増進課）
	委 員	秋山 秀子	（生涯学習部生涯学習推進室）
	委 員	小林 彩乃	（阪南市立図書館）
事務局	生涯学習推進室長	矢島 建	
	生涯学習推進室 室長代理	井上 真理	
	生涯学習推進室 総括主事	竈谷 早織	
欠席者	委 員	頭師 康一郎	（市民公募）
	委 員	大塚 尚子	（はんなん子育てネットワーク）
	委 員	下出 千昭	（貝掛中学校）
	委 員	隅田 恭子	（石田保育所）

事務局	<p>令和５年度第２回阪南市子ども読書活動推進会議を開会する。本日の会議は、阪南市子ども読書活動推進会議設置要綱第５条により、委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告する。</p> <p>こども未来部子ども政策課代表委員の交代により、依嘱状を交付する（机上配布）</p> <p>各委員自己紹介 資料確認</p>
事務局	ここからの議事進行は、会長にお願いします。
会長	令和５年度第２回阪南市子ども読書活動推進会議の議事を進める。
案件１	<b>第四次阪南市子ども読書活動推進計画に盛り込むべき内容について</b>
会長	案件１、第四次阪南市子ども読書活動推進計画に盛り込むべき内容について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>６月１５日の第１回会議は、開催通知の遅れ、当日の急な欠席により、出席委員が半数に満たなかったため、急遽書面開催とさせていただいた。委員の皆さまには事務局の不手際をお詫びする。</p> <p>第１回書面会議の結果を、第四次子ども読書活動推進計画の内容についての各委員の意見として報告する（資料１）</p>
会長	追加の意見がないか。
各委員	追加意見なし。
会長	では、第四次子ども読書活動推進計画には、資料１に示した内容を盛り込むこととする。
案件２	<b>第三次計画における成果と課題について</b>
会長	案件２、第三次計画における成果と課題について、事務局より説明をお願いします。

事務局	<p>第三次計画は、令和元年3月に策定し、冊子を委員の皆さまにも配布したが、この4年間に複数回委員が交代した施設もあるため、改めて「第三次子ども読書活動推進計画」を配布させていただいた。これをもとに、第四次計画の策定を進めていくため、随時参照していただきたい。</p> <p>各委員から提出いただいた「第三次計画における成果と課題記入シート」の内容について、各施設・機関で第三次計画をもとに振り返っていただいた。この場では、抜粋して、報告する。(資料2)</p> <p>保健センターの成果として、保健師の関わりにおいては、保健センター事業や家庭訪問・地域での教育等で、子どもの発達や想像力を養うためには絵本が大切であると伝えることができた。また、赤ちゃん相談時に絵本の読み聞かせを実施することができた。</p> <p>課題は、地域子育て支援事業として地域で健康教育を行う際に、読書推進の視点から絵本や紙芝居を使用して実施することができたが、開催回数が少なかったことである。</p> <p>小中学校・教育委員会の成果として、学校図書館専任司書と各校図書担当教員が協力し、図書委員会が中心となり、朝の読み聞かせや読書スタンプラリー、本の紹介ポップの作成等、読書への興味、関心を高めるために各校が工夫を凝らした取組を実施した。</p> <p>課題として、学校図書館専任司書の1校1名配置を実現できていないことがあるが、予算面や学校図書館専任司書の勤務希望等を考えると厳しい現状がある。その中で、各校で同水準の図書館教育を充実させていくために、教育委員会としては、司書研修等を通じて取組を把握し、学校図書館専任司書が各校で、より充実した取組を進められるような研修や情報交換の場を提供していく必要があると考えている。</p> <p>他の施設・機関については、配布した資料で確認いただきたい。</p>
会長	追加の意見や質問はあるか。
委員	学校図書館専任司書が不足し、全校配置ができていないと以前から報告が続いているが、実現できていない原因は何か。
委員	<p>現在、小学校8校、中学校4校に対し、学校図書館専任司書の人数は9名で、学校によって、週5日、週3日、週2日と司書の勤務日数は違っている状態である。近隣の市町では、雇用している学校図書館専任司書の人数が少ないため、ひとりが担当する学校数が多かったり、学期ごとに巡回したりしていると聞き及んでいる。近隣市町と比較すると、阪南市は、1校に対する学校図書館専任司書の人数は多いほうである。全校に、毎日、学校図書館専任司書が勤務している状態が理想であるが、市の財政状況が厳しく、予算面</p>

	では現状維持が精一杯であり、また、学校図書館専任司書にふさわしい資質を持ち、勤務条件に一致する人材の確保が難しい状態である。
会長	他に意見等あるか。 次の案件に移る前に、事務局より補足説明があるとのことである。
事務局	この「第三次計画における成果と課題記入シート」については、各委員からご提出いただいた各シートの記載内容が、「第三次阪南市子ども読書活動推進計画」の14ページ以降に掲載している内容と比較すると不足している部分があるため、後日、各施設・機関に個別にヒアリングを実施する。
委員	ヒアリングは、どのような方法で行うのか。
事務局	可能な限り対面で行いたいと考えている。
会長	各委員には、事務局への協力をよろしくお願いします。
<b>案件3</b>	<b>第四次計画におけるテーマについて</b>
会長	案件3、第四次計画におけるテーマについて、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>第四次計画におけるテーマとは、施設や機関は違っても同じ方向を向いて読書活動を推進していくためのものである。ちなみに、第三次子ども読書活動計画の策定時は、絵の本ひろばを広めていこうとしていた時期であったため、友だちや親子、誰とでも一緒に本を楽しめたらという思いで、「本の楽しさを共有する」というテーマとなった。小・中学校で次々絵の本ひろばを実施し、順調に推進できていたが、新型コロナウイルス感染症の流行があり、昨年度まで事業や活動が制限され、企画していた行事・イベント等が十分にできず、推進が停滞してしまったという経緯がある。</p> <p>また、資料1の意見からは、「まず、本を手にとってもらいたい」「きっかけづくりをテーマに入れてはどうか」「SNSを利用することも必要」などが挙げられており、「きっかけづくり」「本との出会い」というものがキーワードとなるかと思う。</p> <p>そこで、「第三次阪南市子ども読書活動推進計画」のテーマ「本の楽しさを共有する」に「本との出会い」を加えた、「本と出会い、その楽しさを共有する」というテーマを提案する。</p>

会長	事務局の提案に対し、意見はあるか。
各委員	意見なし。
会長	では、「本と出会い、その楽しさを共有する」を第四次計画におけるテーマとする。
<b>案件4</b>	<b>第四次阪南市子ども読書活動推進計画において取り組むべき事項について</b>
会長	案件4、第四次阪南市子ども読書活動推進計画において取り組むべき事項について事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>資料2の第四次阪南市子ども読書活動推進計画において取り組むべき事項について、抜粋して報告する。</p> <p>小中学校・教育委員会代表からは、日常的に読書の習慣化やより一層の読書活動の推進のため、電子図書館の利用も1つの手段として、子どもたちに「本」との出会いの機会をつくると報告いただいた。</p> <p>他の施設・機関については、資料2をご覧ください。</p>
会長	学校の電子図書館の利用の現状はどうなっているか。
委員	ほとんど利用できていない。子どもたちの使うタブレット端末で読書ができるので、例えば紙の本は手に取りにくい、ゲームに親しみ、端末を使うことへの抵抗が少ない子どもへのアプローチの手段として等、読書のきっかけのひとつとして、電子図書館を活用したいと考えている。
会長	学校の電子図書館の利用について、市立図書館の対応はどうなっているか。
委員	市立図書館では、同時に複数の端末からアクセスできる、児童書の読み放題パックを昨年度導入した。タブレット端末で電子図書館を利用するためには、IDが必要だが、それが学校の電子図書館の利用におけるネックとなっている。
委員	電子図書館では、図書貸出券番号をIDとしているため、タブレットはひとり1台あっても、貸出券を持っていないと利用ができない。児童生徒全員の貸出券を作るためには、学校、市立図書館相互の調整が必要となるため進んでいない状況にある。

会長	他に意見はあるか。
委員	この会議には本が好きな人が集まっていると思うが、自分はあまり本に親しんだ経験がなく、本以外に楽しいことがたくさんある若い親たちに、何を伝えたらよいのかわからない。「楽しいでしょ」と言っても、何も伝わらない気がする。
委員	低年齢の子どもを対象にしている施設では、やはり紙の本を大切にしたい。
委員	保健センターの検診時、待っている様子を見ると、絵本を見る親子もいるが、スマホで動画を見せている親もいる。家庭での育児のことを想うとデジタルはダメとは言えない。長時間見せないようにとは伝えるようにしている。
委員	子ども文庫では、仕掛け絵本などを使って、本に興味を持ってもらえるような工夫をしている。赤ちゃんが興味をもっている様子を見て、お母さんが喜び、家庭でも同じ本を買ったという例もある。
委員	<p>子どもにスマホで電子図書をみせて、「本を見せているからいいでしょ」と、親は別のことをしているのは違うと思う。</p> <p>親子でいっしょに楽しむ、共感する、共有するのが大事ではないか。絵本を読んでいると、周りにいる人に、どんな本を読んでいるかが見えるが、電子図書の場合、何を読んでいるか、周りに見えない。電子図書をどのように共有できるか、そのヒントを皆で見出していきたい。</p>
委員	児童がタブレット端末で自分の読んだ本の表紙を撮影し、友達と見せ合っている事例がある。何を読んでいるか分からないのは、教育の観点では電子図書のデメリットではあるが、共有の方法はこの事例が参考になるのではないか。
会長	共有の方法としては、絵の本ひろばが好事例である。絵の本ひろばで並ぶ本は、絵本だけでなく、図鑑や、写真集などもあり、子どもたちが楽しそうに見ている。
委員	絵の本ひろばを、わくわく教室（放課後子ども教室）で実施する予定である。

会長	<p>絵の本ひろばは、本に囲まれた空間で、好きな本を、自由に楽しめる。これを読みなさいというような強制はないし、読み方も自由で、自然に本に親しめるところがとてもよいと思う。コロナ禍でストップしてしまっていたが、再開できてよかった。</p>
委員	<p>わくわく教室での絵の本ひろばの様子を見たが、広い体育館いっぱいの本が並び、子どもたちは、自分の好きな本に駆け寄ったり、寝転んだり、本当に楽しそうであった。</p> <p>また、留守家庭児童会では、自動車文庫のスポット巡回を市立図書館に依頼した。長時間一つの教室で過ごすことになる夏休み、子どもたちに楽しんでもらえたらと考えている。</p>
会長	<p>先日、リサイクルブック“つながり”で販売していると、親は一切口出しせず、自分で欲しい本を選ぶ子どもという親子がいた。本を読まない子どもに目を向けがちだが、本好きな子どもはちゃんと育っている。ブックスタートが始まって、もう20年になる。赤ちゃんの頃から本を楽しんでいても、ライフステージの変化により、一時本から離れることもあるだろう。しかし、心の中には、本を楽しんだことが残っていて、また何かのきっかけで読書を再開することもある。せっかくいろいろな立場、施設からこの場に集まっているので、計画を作るだけでなく、もっと連携していけたらと思う。各施設・機関で行う読書活動推進に目を向けがちだが、テーマにある“共有”という言葉は、私たちの活動の連携という意味も含んでいると捉えたい。</p> <p>読書活動推進というのは、効果を明らかにすることは難しく、すぐに成果が上がるものでもないが、数字にとらわれることなく、地道にやっていくしかない。読書を楽しんでいる子どもの様子が見られることを喜びとしたい。</p>
委員	<p>社会福祉協議会では、下荘地区のすくすく塾とつくし文庫、自然田地区のどんぐり文庫のように、同じ地域で活動する福祉委員と子ども文庫をつなぎ、地域の居場所を増やしていこうとしていたが、コロナ禍以後、居場所の数だけではないなと感じている。</p>
委員	<p>市立幼稚園では、コロナ禍で中止していた週末の絵本の持ち帰りを再開した。「絵本って楽しいよね。」というメッセージを発信していきたい。また、絵の本ひろばではたくさんの本が並ぶが、その並べ方の工夫次第で、本がとても輝くのを実感できる。</p>
委員	<p>子育て総合支援センターでは、3月に絵の本ひろばを実施した。今年度、SDGs 基金により絵本を購入する予定であるが、絵の本ひろばで保護者が</p>

	<p>気に入った写真集などを中心に、読書会ウエストボードの協力を得ながら選書を行い、希望リストを市の担当課に提出したところである。</p>
会長	<p>長く読み継がれてきた定番の絵本には、古典の良さがあるが、今の新しい作家の絵本にも、新鮮で素晴らしい感性のものがたくさんある。新しい絵本を購入するには、やはり予算が必要である。</p>
委員	<p>小学校では、図書貸出券を持っている子どもが少ないという話があったが、小学校で、もっとカードを作ってもらえるようなアピールができないか。カードを作るとこんなことができる、こんなメリットがあると知らせることが、本との出会いにつながるのではないか。</p> <p>学校で、「市立図書館に行こう」見学会等できないのか。</p>
委員	<p>社会科見学で、何校かは市立図書館に来る。</p>
会長	<p>市内の小学校すべては来ないのか。</p>
委員	<p>小学３年生で社会科の学習が始まるので、阪南市のことを勉強するため、市内の施設等の見学をする。市役所には、市内の全小学校が見学に来ている。</p>
委員	<p>なぜ、市役所にはすべての小学校が来ているのに、すぐ隣の市立図書館には来ていないのか。</p>
事務局	<p>学校が決めた見学日が、休館日に重なっていたり、班分けをして、一部の子どもが市立図書館に来る学校もあったりする。なかなかすべての子どもに市立図書館見学に来てもらうのは難しい。</p>
会長	<p>事前に打ち合わせをするのだから、全員が市立図書館見学に来てもらえるよう、日程調整ができないのか。市立図書館見学は、子ども読書活動推進の第一歩と言えるのではないか。</p>
委員	<p>朝日小学校山中分校があったときは、毎月の自動車文庫ふれあい号の巡回が５時間目の授業にあたるよう、分校と市立図書館で時間調整をしてくれていた。ほかの小学校でもそのような連携をしているものだと思っていたが、そうではないのか。</p>
委員	<p>小学校に自動車文庫ふれあい号が来ていた時は、子どもたちはランドセルに図書貸出券を入れていて、よく本を借りていた。ふれあい号が軽自動車に</p>



	更新され運行先の見直しがあったため、学校には来てもらえなくなったが、だからこそ、小学校と市立図書館との連携を強めないといけない。
会長	市内の全小学校が市立図書館見学をするように、と強く言えないのか。
委員	学校には、強制することはできない。情報提供をして、お願いすることはできるので、「第四次阪南市子ども読書活動推進計画」ができた時等の機会を捉えて、校長会で知らせていきたいと思う。
会長	市立図書館のことを親が知らなければ、子どもが知ることはない。子どもが社会科見学で市立図書館のことを知ったら、子どもを通じて親も知る機会となる。 ちょっとしたことで、すごく変わることができるのではないか。 他に意見がなければ、事務局から、補足説明をお願いする。
事務局	「第三次阪南市子ども読書活動推進計画」の5年間のうちの3年間は、コロナ禍により、各施設・機関において思うように取組みを進めることが困難であったため、「第四次阪南市子ども読書活動推進計画」において取り組むべき事項については、継続していく部分が多くあることから、第三次計画における成果と課題と合わせて、後日、各施設・機関委員に個別にヒアリングを行う。
<b>案件5</b>	<b>事務連絡</b>
会長	案件5、事務連絡を事務局からお願いする。
事務局	第3回会議は、9月28日（木）を予定している。 第3回会議の案件として、数値目標についてご意見を聞く予定である。また、各委員からヒアリングしたことを調整し、第3回会議で「素案の素案」段階のものをお示しして、意見を聞きたいと考えている。
会長	数値目標について、補足説明をお願いする。
事務局	数値目標を入れるというのは、令和4年度第2回会議において、委員から提案をいただいたものである。 「第一次阪南市子ども読書活動推進計画」から、数値目標は示さないという方針で計画を立ててきたが、数値目標があった方が計画の進捗状況がわかりやすくなるため、入れてはどうかという提案であった。

	事務局で数値目標案を作成し、ご意見をいただきたいと考えている。
委員	各施設ごとの数値目標を入れるという意味か。
事務局	各施設が取り組みを実施し、その結果として、全国学力調査の読書に関する項目の数値がどう変わるのか等、近隣市町で目標としている項目を参考に、事務局で案を作成したいと考えている。その案について、ご意見を出していただき、検討をお願いしたい。
会長	まだ少し時間がある。発言、何かあるか。
委員	<p>市立図書館のホームページに、子どもたちにアピールする、楽しい仕掛けがあれば、読書のきっかけになるのではないか。</p> <p>尾崎地区以外の子どもは、小学生になっても、ひとりでは市立図書館に行けない。小学校で、子どもたちが市立図書館の本を利用できる仕掛けがあればよいと思う。</p>
委員	市立図書館のホームページは、誰もがわかりやすい、ユニバーサルデザインに配慮したつくりになっている。電子図書館のホームページは、本の表紙を並べて、選べるような仕組みになっているので、子どもでも選びやすいかと思う。市立図書館と学校をつなぐものとして、学校図書館の予約本を運ぶ、「学校配送」を実施している。
委員	市立図書館、学校図書館専任司書、クラス担任、子どもたちの連携がうまくいけばよいと思う。
会長	<p>それぞれがどう関わるか、各施設・機関の連携を示したチャート図を作るのもよいかもしれない。つながりが見え、わかりやすくなる。</p> <p>この会議の皆で、情報交換はもちろん、知恵を出し合い、連携し、足りないところは、それぞれの得意なことで補充しあって、ネットワークが作れたらよい。</p> <p>その他 意見等ないか。</p> <p>意見がないようなので以上をもって、令和5年度第2回阪南市子ども読書活動推進会議を終了する。</p>